

日本ウィニコット協会 Newsletter

Vol.5 2021

目次

ウィニコット・フォーラム 2021 へのお誘い.....	1
ウィニコット・フォーラム 2021「ウィニコットの臨床と家族」	2
リレーコラム「「読書会」という遊び」 （加茂 聡子）	9
リレーコラム「スピノザとウィニコット」 （川谷 大治）	4
リレーコラム「浮世絵母子像の精神分析」 （北山 修）	9
ウィニコット没後 50 周年記念講演会「ウィニコット再入門」 報告	11
協会からのお知らせ	12
編集後記	14

大会長からのご挨拶

ウィニコット・フォーラム 2021 へのお誘い

ウィニコット・フォーラム 2021 大会長
吉村 聡（上智大学）

Covid-19 の感染状況を鑑みて、昨年度に引き続き、今年度もオンライン形式でフォーラムを開催させていただくことになりました。開催は、12月26日（日）を予定しています。本来ならば、直接皆様とお会いして、学びを深めあいたいところですが、対面開催は来年度以降に期待したいと思います。

今年のテーマは「ウィニコットの臨床と家族」です。改めて述べるまでもなく、精神分析は、人が家族の中に生まれる存在であるとともに、家族にこそ葛藤や苦しみの源泉があることを示しています。分析の描くこころの舞台は、家族なのです。ウィニコットを共通言語に、改めてこの「家族」という複雑で多様な問題について思索を深め、自由なものの思いを刺激できるような場をご用意したいと思います。

特別講演には、富樫公一先生（甲南大学）をお招きします。グラディーバ賞という、精神分析における国際的な賞を受賞された富樫先生に、現代自己心理学の視点から、母子関係についてのご講義をいただきます。

フォーラムへの参加申込等の詳細は、追って、ウィニコット協会のホームページ上で公開される予定です。年末のあわただしい時期の開催ではありますが、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ウィニコット・フォーラム 2021

「ウィニコットの臨床と家族」

来る 12 月にウィニコット・フォーラム 2021 を開催いたします。新型コロナウイルスの感染流行の状況を鑑みて、今年度もオンライン上での実施となります。詳細につきましては、随時 HP に掲載いたします。

記

日時：2021 年 12 月 26 日（日）10:00～16:10

会場：オンライン

プログラム

10:00～10:05 大会長あいさつ

吉村 聡（上智大学）

10:05～12:30 シンポジウム「ウィニコットと家族」

「ボウルビーの見た家族，ウィニコットの見た家族」 工藤 晋平（名古屋大学）

「「ピグル」と「家族」」 岡本 亜美（個人開業）

「ウィニコットの家族臨床について」 飯島 みどり（慶應義塾大学）

指定討論：奥寺 崇（クリニックおくでら）

話題提供者およびフロアとの討論

司会：加茂 聡子（四谷こころのクリニック）

稲員 修平（川谷医院）

12:30～12:45 総会

12:45～13:45 休憩

13:45～14:45 講演

「現代自己心理学と間主観性理論が導く養育者－子ども相互交流の理解」

富樫 公一（甲南大学）

司会：吉村 聡

15:00～17:00 パネル 「「子どもの治療相談面接」をめぐって」

「子どもの治療相談面接」概説 大矢 泰士（東京国際大学）

現代クライン派理論との交錯 西 見奈子（京都大学）

どこまで近づき、どこで問うのか

—可能性空間における距離感、メンタライジングにおける距離感—

菊池 裕義（駒木野病院）

司会と討論：妙木 浩之（東京国際大学）

吉村 聡

17:00 閉会の辞 吉村 聡

リレーコラム

「読書会」という遊び

四谷こころのクリニック 加茂 聡子

「読書会」という学びの形式に初めて触れたのは、研修医のときに先輩と英語の医学論文と一緒に読んだことだった。その後精神分析を学び始めて以来、様々な規模、形式での読書会に参加してきた。

勉強を始めた頃のわたしの読書会へのニーズは「一人で読み進められないものを仲間の力を借りて理解すること」だった。フロイトもビオンもウィニコットも、最初は誰かと読む機会をつくることで読み進められた。仲間の力を借りて、わたしの脳内には少しずつ、知的な見取り図のようなものが構成されていった。

そんな時期、2008年からの2年間、妙木浩之先生と吉村聡先生が企画した「小児医学から精神分析へ」を読む会に参加した。それまでのわたしの読書会体験は論文一本や本の章一章を担当者がレポートし、参加者が話し合う、という体のものが多かった。しかしその読書会の形式は違った。一文ずつ音読して、ある程度の区切りで話し合う、という形式が妙木先生から提案されたのだ。その形式をとる意図は説明されたかもしれないが、今は忘れてしまっている。ただ、え、音読？と少し戸惑った感覚を思い出すことができる。

音読の時間がある分、一回で進む分量は少なくなった。それまでの「取り急ぎ、仲間の力を借りて理解して先に進みたい」というわたしのニーズには合っていなかったとも言える。しかし、その僅かなペースダウンにわたしは不満を感じなかった。文章を読む声を聞きながら、わたしは少し先を読んだり、また元に戻ったり、思いついたりわからないことがあればメモしたりしていた。誰かの音読を聞くのも、思えば久しぶりのことだったかもしれない。今までの「読書会」とは違うその形式をわたしは楽しんでた。

翻訳の文章であっても、声に出して読むことはウィニコットの、あるいは翻訳者チームの息遣いに自分の息遣いを合わせるようなところがあったのだと思う。その後、わたしは（拙い発音であっても）英語、あるいは翻訳文でも音読しながらの読書会の形式を何度か体験し、その都度楽しんでた。

2019年、あの読書会から10年を経てわたしは日本ウィニコット協会の理事となった。そして2020年から同じ関東地区の理事である吉村聡先生とウィニコットを読む読書会を立ち上げた。今年からはくしくも11年ぶりに「小児医学から精神分析へ」を10人ほどのグループで読んでいる。音読はしていないけれど、そして今は感染症の問題からオンラインではなくなるけれど、少しずつ、ゆっくり考える時間を取ろうという姿勢で続けている。

誰かの講義を聞くのではなく、解説を聞くのでもなく、誰かとゆっくり、のんびり考えを巡らせながら論文を読む時間が、参加者それぞれの心に残りますように。マネジメントする立場としてのわたしはそんなことも願うけれど、それ以上に、わたし自身が10年前とはまた違った感想をもち、今も読むことを楽しんでいることが、うれしい。

リレーコラム

スピノザとウィニコット

川谷医院 川谷 大治

スピノザは「力動的心理学」の祖だと私は思っている。自由意志は否定され、実体、属性、様態、観念、喜びと悲しみの感情、欲望、コナトゥス、そしてイマギナチオなどの用語で人間の心をダイナミックに解き明かしていく。スピノザと出会ってからウィニコットが分かりやすくなったので、今回は『移行対象と移行現象』にチャレンジする。

孫にエリック・カール著『パパ、お月さまをとって！』を読み聞かせていて、『エチカ』のイマギナチオ論を思い出した。月は地球から約 38 万 km 離れているにもかかわらず一茶も「名月を取ってくれろと泣く子かな」と詠んだ。子どもは月に手が届くと信じている。スピノザによると「個々の知覚はすでに信念である」。なぜなら「（それは）我々の表象する事物の現在する存在を排除するより強力な他の表象が現れない限り消失しない」からである。月に手は届かない事実を知っても、この知覚的信念は消えない。それ故に、「お月さまを取って」という子どもの願いをエリックも一茶も否定するどころか共有し作品に仕立てる。

なぜ子どもの願いは否定されずに共有されるのだろうか？スピノザは『神学・政治論』で預言者の言葉を人々がなぜ信ずるのかという問いから、人間本性として我々には「共有信念」があることを明らかにした。たとえば私が出来心で万引きをして逮捕されても、私は自分の非行をごまかそうとはしても私を裁く「法」を放棄するように訴えるようなことは決してしない。つまり預言者の言葉も「お月さまを取って」と泣く子どもも絶対的な確実性はないにもかかわらず、そのことを疑おうとしない態度が我々人間にあるという。それをスピノザは「共有信念」と言った。その始まりは第一種の認識「イマギナチオ」にある。スピノザは我々の感覚的な表象や記号、そして意見をイマギナチオと名付けた。イマギナチオは「想像知」「想像力」と訳されることもあるが、上野は「表象作用」と訳するのが妥当だと主張する。畠中訳『エチカ』では「表象」と訳されてイマギナティオとルビが振られている。

なぜ疑わないのか？『エチカ』（第二部定理四九備考）によると、確信しているのではなくただ疑わないだけに過ぎないからという。あるいはまた、「彼の表象を動揺させる原因（言いかえれば彼にそれを疑わせる原因）が少しも存在しないから彼はその偽なる観念に安んじているというだけのことである」とにべもない。スピノザはイマギナチオを「眼を開けて見る夢」ともいう。外的世界との「衝突」が続く限り、たとえ理性的人間であっ

でもイマジナチオを完全に克服することは不可能なので、スピノザは真実でもないのに疑わずに共有する第三の領域を想定する。

この「共有信念」論はウィニコットの移行現象の概念と同じであることに驚く。乳幼児はお腹が空くと泣く。母親は乳房を乳幼児に差し出す。乳幼児は乳房からお乳を飲む。このこと全体が乳幼児に自分が乳房を創造したことを信じさせる。乳幼児は、我々から見たら真ではないが、乳房を創造したと認識する。そして次に、このイリュージョンの領域に移行対象という具体的なものが持ち込まれる。ウィニコットはそれを子どもが創造し発見したものなのか外的現実から提示されたものかを問うことを禁止する。ウィニコットは「内的現実と外的現実の両方が寄与している**体験することの中間領域**」を想定し、「これは疑義を突き付けられることがない領域である。この領域に求められることといえば、内的現実と外的現実を分離しつつも相互に関係させておく、という永遠の人間の課題に取り組む個人にとって、それが休息の場として存在すること以外にはないからである」と述べた。ここに妄想や嘘やオウム真理教も生まれる。つまり我々人間は、現実世界では虚偽でも心のなかでは永遠に（真なるものとして）偽なる表象を持ち続ける。さらに、『エチカ』（第二部定理十七備考）でスピノザは、ないものがあるものとして想像する際に実際に存在していないものを受け入れるのであれば、「（精神はイマジナチオを）自己の本性の欠点とは認めず、かえって長所と認めたことであろう」と述べて、手を使うことを禁止するルールの中でプレイするからサッカーは面白いように、ウィニコットの『遊び』論を先取りする。フロイトが到達したワークスルーの世界、ウィニコットの長時間セッション、いずれもイマジナチオとの闘いであると同時に興味が尽きない面白さがある。ウィニコットはスピノザを知っていたのだろうか。

ここまで論を進めてくると、ウィニコットの“transitional”という言葉に疑義を挟みたくなる。ウィニコットは“transitional”を「違いと類似性を受け入れるようになる過程」、つまり「現実検討」という主観から客観へと到達する道のことだと言う。私の経験では客観的見地に立てるようになるのはメタ認知能力を獲得する10歳まで待たないといけない。それは短期記憶からエピソード記憶への移行の時期と重なる。イマジナチオの力は死ぬまで衰えないので、よって私は、“illusional stage”⇒“transitional stage”⇒“stage leading to objectivity”の三段階を考えたい。つまり“transitional stage”では客観的に物事を観察し因果性を分析する理性的思考（メタ認知）はない。イマジナチオの段階でウィニコットは終わり、スピノザはさらに客観に至る道（＝理性、直観）を探究し「すべて高貴なものは稀であるとともに困難である」と述べて『エチカ』を終わる。

以上のことから、ウィニコットはスピノザを知らなかったのだ。

参考文献

上野修：スピノザの『神学政治論』を読む．ちくま学芸文庫、2014.

スピノザ：畠中尚志訳『エチカ』．岩波文庫、1951.

スピノザ：吉田量彦訳『神学・政治論』．光文社古典新訳文庫、2014.

D・W・ウィニコット：橋本雅雄/大矢泰士訳『改訳 遊ぶことと現実』，岩崎学術出版社、2020.

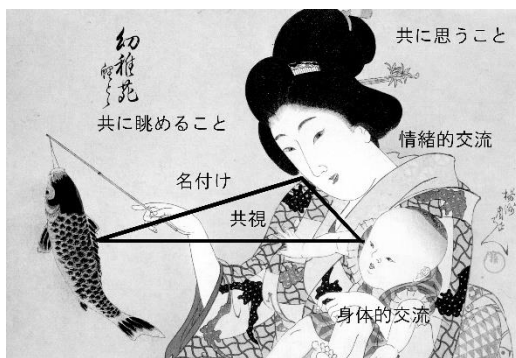
リレーコラム

浮世絵母子像の精神分析

個人開業 北山 修

現在を生きている私たちの「現在の問題」を、過去の出来事や体験、すなわち「育ち」の観点から理解することが精神分析の視点です。平均的な幼児期体験を知っておくことは分析臨床における勉強の基本で、それでフロイトが幼児期心性を理解して以来、臨床のための発達理論が数多くつくられてきました。

中でも対象関係論は、発達途上で獲得された関係性を、大人になっても相手役を変えながら繰り返していると考えます。過去から引きずってきたものが現在の人間関係や治療関係においても無意識に反復されるので、その読み取りを通して過去やファンタジーに決定された対象関係を理解し取り扱うのです。そういう営みの中で、特に歴史的に古い母子関係を求める私が興味を持ったのが、日本の芸術家による観察と描写です。数十年前から、約2万枚近くの浮世絵を調べてきましたが、私はその母子関係にひとつの型が繰り返されていることに気づいたのです。



例として出した楊洲周延の「幼稚苑 鯉」との原図は、ネットの「くもん子ども浮世絵ミュージアム」で見れます。画家は「同じものを眺める母子」を様式化して反復して描いているようで、その二人の在り方を私は「Viewing Together」あるいは「共視」と名付けました。母と子、そして対象が三角形をなし、表の外的対象を介した二者間「外」交流と、その裏の直

接的な二者間「内」交流が展開しています。

そして、ここにはウィニコットが強調した「移行対象」と「抱えること」が描かれています。それで数年前に、この図を京都大学に客員教授として来日していたジャン・アブラム先生に見せたところ感動され、これをきっかけに交流が続いて、とうとう出版された著作の表紙と本文中に引用されました。中身はぜひ原本で確かめてもらいたいところですし、機会があるなら後日改めて議論したいと思いますが、A.グリーンとの出会いを受け、彼女の「生き残る対象」についての新しい理解が展開されています。

その意見交換の過程で、この子はいったい何歳だろうということが話題になりました。読者はどう推測されるでしょう。通例0歳から3歳の間で意見が分かれます。首が座って

いるし積極的に動いているので、まあ1歳くらいという意見が多いという印象ですが、体格が赤子のようなのが気になるかもしれません。そこで解説しておくのですが、これは美人画の類であり、一般鑑賞者が第一に注視するのは中央にクローズアップされた母親の顔なのであり、それに比して母親の腕が小さく描かれています。そしてその世界は私たちにも開かれていて、彼女のチャーミングな微笑みによって鑑賞者もまた目の前のシンボル形成の原点とも言える三角形へと誘いこまれるのです。

ウィニコット没後 50 周年記念講演会「ウィニコット再入門」報告

実施報告：「ウィニコット再入門」

和こころのクリニック王寺 奥田久紗子

ウィニコット没後 50 周年を記念して、2021 年 4 月 4 日、「ウィニコット再入門」と題した講演会をオンラインにて開催しました。オンラインというアクセスのしやすさもあったか、日本各地から計 111 名の先生方にご参加いただきました。そのうち、75 名が非会員の先生方で、ウィニコットや彼の仕事に関心をもっている方がたくさんいるのだと実感しました。

ウィニコットに親しんでいる人も、そうでない人にも、新しいウィニコット像を描いてもらえるよう、ウィニコットの普及に尽力してこられた 3 名の先生に講演を、若手や学派の異なる先生に指定討論をしていただきました。

演者の館 直彦先生には、「ウィニコットはどのような人か ―その生涯と人物―」というタイトルで、ウィニコットの人生や人となり、彼の仕事にどのように影響したのかについてお話いただきました。妙木 浩之先生には「ウィニコットの移行空間論」として、ウィニコットの代表的な理論について解説していただきました。「ウィニコットの臨床」について、川谷 大治先生にご講演いただき、スピノザの哲学という観点からウィニコットの臨床をとらえるという新たな試みが含まれていました。

再入門というには少し難しい内容も含まれていたかと思いますが、新たなウィニコット像を描き出すための素材になったのではないのでしょうか。

当日は、配信トラブルなどもあり、ご参加された先生方にはご不便をおかけした部分もあったかと思います。今回の反省を今後の運営に生かしていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

協会からのお知らせ

研修会・協会共催事業のご案内について

日本ウィニコット協会では、ウィニコットおよび独立学派に関する研修会や、協会共催事業を会員の皆さま宛てにご案内させていただいています。

つきましては、会員の先生方が主催されている研修会などで、会員の皆さまにご案内したい内容がございましたら、協会事務局宛てにメール【jwasecretariat@gmail.com】にてご連絡ください。理事会にて審議の上、承認された場合、協会ホームページの「研修会情報」への掲載と、メーリングリストでの配信をさせていただきます。

なお、メールの件名を「研修会（協会共催事業）掲載希望」とし、本文に研修会の詳細をご記入ください。フライヤーの画像データや PDF などがあれば、そちらも添付していただければ掲載いたします。

協会からのお知らせ

年会費納入のお願い

2021 年度（2021 年 4 月～2022 年 3 月）の日本ウィニコット協会の年会費の納入についてご案内いたします。納入会費は下記のとおりですので、まだお振込みでない方は、**9 月末まで**に下記口座に振込をお願いいたします。

記

○年会費：5,000 円

○納入方法：銀行振込（送金手数料は自己負担でお願いします）

振込先：りそな銀行上六支店

口座番号：普通口座 0370321

口座名義：日本ウィニコット協会

*必ずお名前をご明記ください。

*職場名義での振込み等される方は、ご一報くださるようお願いいたします。

ご不明な点がございましたら、協会事務局までご連絡ください。

編集後記

コロナ禍という言葉にもうんざりしてきた頃ですが、ここ1~2年ほど、家にいる時間が増えた方が多いと思います。一人暮らしをしていても、誰かと暮らしていても、多かれ少なかれ家族との関係について考える機会が増えたのではないのでしょうか。今年度のウィニコット・フォーラムは、まさに家族がテーマで、タイムリーだと思います。ウィニコットがどのように家族について考えていたか、今の私たちがそれをどのようにとらえ、実践にどう生かしていくかを考える場となるはずです。楽しみですね。

次号は、ウィニコット・フォーラム 2021 前の、晩秋～冬の発行を予定しています。

まだまだおさまる気配のないコロナウィルスと、暑さに負けないよう、どうぞご自愛くださいませ。（うだるような暑さに、ワインセラーで暮らすという空想をしながら。）

（奥田久紗子）

2021 年 8 月 7 日発行

日本ウィニコット協会 Newsletter vol.5

編集：石田 拓也

奥田 久紗子

発行：日本ウィニコット協会

日本ウィニコット協会事務局

e-mail：jwasecretariat@gmail.com

HP：https://winnicottforum.com

〒543-0001

大阪府大阪市天王寺区上本町 6 丁目 6-26 上六光陽ビル 601

たちメンタルクリニック・上本町心理臨床オフィス内
